

今村復興大臣宮城県訪問ぶら下がり会見録
(平成28年9月14日(水) 17:55-18:00 於) 宮城県気仙沼市「株式会社加和喜フーズ」)

1. 発言要旨

今日は塩釜、東松島、女川、南三陸、そして気仙沼を訪問いたしました。それぞれに魚市場でありますとか、土地区画整備事業、それから仮設住宅、商店街や交流拠点施設の建設現場、そしてトマト農園や水産加工施設等の視察を行ったところであります。それぞれにいろいろな話を聞いて、非常に進んでいるところ、まだまだ特にソフト面等で課題が残っているところ、そういったお話で、大変我々の勉強になったところであります。一步一步、こういった話を受けて、さらに前に進めていきたいと思えます。

以上になります。

2. 質疑応答

(問) 今日は最後の行程で水産加工場のほうを見学されましたけれども、被災地のほうでは、非常に水産加工業は人手不足が深刻な問題になっております。国にも、そういった外国人研修生の特区的な増枠とか、そういった要望が出ているんですけれども、復興庁としてはこういったお考えでこれから対応されるお考えでしょうか。

(答) これはせっかくこうやっていろいろな整備もしてきたのに、なかなかそこで労働力不足ということで、それがネックになっているということ、今日も直にお話を聞いて、大変だなと思ったところであります。これについては、この法制度も、さきの国会でちょっととまっていますので、今国会にもできれば上げて、早く成立を進めたいということは考えております。

(問) 大臣就任されて、1か月少し過ぎましたが、まだ被災地のほうからは、大臣がどういうことをやりたいのかという何かはっきりメッセージとして伝わっていないところがありまして、改めて今何が一番やりたいと思っていらっしゃるのかというのをお聞きしてよろしいですか。

(答) 私もまだ来ただけで、知ったかぶりしていいわけではないから、そこまで具体的なものを出しませんけれども、いろいろ勉強してきている中で大体問題点はわかってきました。そして、一つでも、具体的なものを出してやっていこうではないかと。先ほども言いましたけれども、ソフトの部分、観光振興ですね。今回、いろいろな地域の物販の拡大、そして、新しい産業というのは、

イノベーションコスト等を中心にありますが、これは経済産業省でも一応やっていますけれども、そういったところに、具体的なことを一つずつ提案して試してみようかなと思っています。

(問) これは大臣の会見のほうでも出ていましたけれども、東京電力株を8,000株持っていらっしゃる件、これは多分福島県民の方からすれば、感情的にやっぱりいろいろ複雑なものを持っていらっしゃる方もいらっしゃるかと思うんですけれども、改めまして、例えば株を売却するとか何かそういう、お考えというのはお持ちですか。

(答) これはもう発災以前からずっと持っている話であって、もう全くそのままです。ですから、特に今、ここでそれを売ったりとかということは、一切、これは今できませんから、そのままということです。

(問) 今日、三陸道の志津川インターまでの開通が10月30日ということを示されて、多分、南三陸町でも話されたと思うんですけれども、それ以降、例えば気仙沼に至るまでとかというのがまだ具体的に年度が見えていないところがあったりとか、そういう点で、地元の期待といいますか、大きいと思います。マターは国交省であると思うんですけれども、もうちょっと背中を押すというか、働きかけるのを今後どのように考えていらっしゃいますか。

(答) それはもちろん1日も早くということで、しっかり我々も応援といいますか、国交省に推進するようにお願いをするつもりであります。

(問) 今の時点では答えられないと思いますがけれども、具体的にいつまでもというのは、1日も早く出せるように働きかけをということによろしいですか。

(答) それはもちろんそうですね。具体的なことは今、言えません、私としては。

(問) トマト農園なんですけれども、トマトの栽培方法で水をあげ過ぎるとやっぱりうまくなりませんよという話をされたかと思うんですけれども、それは被災地への比喩ということではないということによろしいですね。

(答) 当たり前ですよ。それは柑橘類もそうなんですけれども、要するに糖度を上げるには、水分が多いと駄目なんですよ、どうしても。だから、かといって少な過ぎると軽いから、その辺のことで知ったかぶりして言うただけで、そんな変なことを言わないでくださいよ、お願いします。

(問) 人手不足の話について、ちょっと改めて意気込みという形になるかもしれませんがけれども、復興庁としても来年の概算要求に11億を盛り込んでいると思うんですけれども、法改正をという話も

ありましたけれども、復興庁として何ができるのか、もう少しちょっとお話ができませんか。

(答) 復興庁としてやれることと言えば、特にこの被災地で、今日みたいな具体的な話がありますね、水産加工業を含めて。そういったことをもっと具体的に我々も出しますから、これを何とかしないと、復興が進まない。生業の再生といっても、それが足かせになってしまうぞということを強く言って、少しでもこの法案を含めて前に進むように働きかけをしたいというように思います。

(問) 就任から1か月経って、いろいろな問題点が浮かんできたとおっしゃっていましたが、具体的にどういった問題意識を持たれているのかというのをもう少し具体的にお聞かせいただけますか。

(答) いろいろなインフラ整備については地域差はありますが、かなり動き出している、という感じです。しかし、やっぱりこの生業の再生というところについては、先ほど言った人手不足や、福島はまたいろいろ問題等もあって、そういったところがやっぱりこれからの課題だなと改めて感じたところであります。

(問) 今回の視察を受けて、新たに気づいた点などがありましたでしょうか。

(答) 非常にうまくいっているところです。そういったところは、我々も非常に勇気づけられるし、こういうふうによくいっているところは、どうしてこううまくいったのかというようなことを、我々も含めていろいろアピールして、そして、とどまっているようなところについても、少し参考にしてもらえればよいというように思っております。ですから、うまくいっているところはこれからもいろいろな意味で、先頭ランナー、フロントランナーとしてもっと前に行って、全体を牽引していく役割をしてもらえればありがたいなと思っています。

(問) 気仙沼全体の街並みを御覧になられて、気仙沼としての印象とこれからの期待で何かありましたら。

(答) 前は2年ぐらいちょっと前に委員会で来たことがあるんです。そのときはまだいろいろかさ上げとかやっていたりして、今回来たら、大分その辺、街並みが落ちついてきたなということで、これからやはり先ほど水産加工等を含めた、そういったことが一つの大きな課題だなということを改めて感じました。

(以 上)